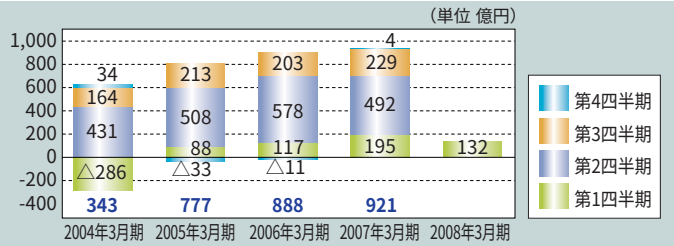


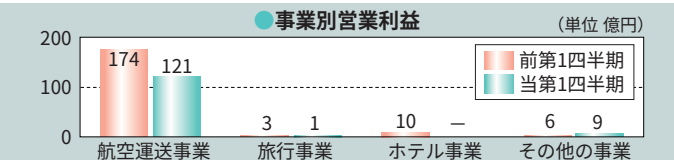
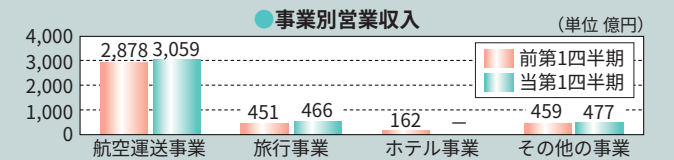
ANAグループ（連結）

- 第1四半期の概況
- 競争環境が激化する中でも国内線、国際線ともに増収を確保しました。
 - ホテル事業資産の譲渡により、同事業セグメント収入が除外されましたが、連結営業収入は過去最高となりました。
 - 徹底したコスト削減に努めましたが、燃油費が前年同期と比較して、111億円増加したこともあり、営業利益、経常利益では前年同期実績を下回りました。
 - ホテル事業資産の譲渡益を特別利益に計上した結果、四半期純利益は873億円となりました。

■四半期ごとの営業利益の推移



■セグメント情報



(注) 上記事業別営業収入および営業利益には事業区分（セグメント）間の取引額が含まれています。

【資産の部】2007年6月のホテル事業資産譲渡に伴い、現預金等の流動資産は前期末比1,793億円増加。一方で、土地、建物等のホテル事業資産の減少等により固定資産は801億円減少。これらの結果、総資産は前期末比989億円増加し、1兆7,010億円となりました。

【負債の部】負債合計では前期末比47億円減少。期末の有利子負債残高（短期借入金、長期借入金、社債の合計）は前期末比781億円減少し、6,713億円となりました。

【純資産の部】四半期純利益の計上による増加と前期末配当金の支払いの結果、利益剰余金が前期末比815億円増加。また繰延ヘッジ損益が191億円増加したことなどから、純資産合計は5,096億円（前期末比1,037億円の増加）となりました。この結果、自己資本比率は29.5%になりました。

連結損益計算書

	前第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	当第1四半期 (2007年4月1日から 2007年6月30日まで)
営業収入	3,452	3,496
営業費用	3,256	3,363
営業利益	195	132
営業外収益	17	29
営業外費用	68	93
経常利益	144	68
特別利益	0	1,347
特別損失	10	23
税金等調整前当期純利益	134	1,391
税金費用	56	514
少数株主利益	1	3
当期純利益	76	873

連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	当第1四半期 (2007年4月1日から 2007年6月30日まで)
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	173	310
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 498	2,030
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 349	△ 841
4. 現金及び現金同等物の換算差額	0	0
5. 現金及び現金同等物の増減額	△ 675	1,500
6. 現金及び現金同等物の期末残高	1,752	3,223

連結貸借対照表

	前期 (2007年3月31日現在)	当第1四半期 (2007年6月30日現在)		前期 (2007年3月31日現在)	当第1四半期 (2007年6月30日現在)
〈資産の部〉			〈負債の部〉		
流動資産	4,220	6,013	流動負債	4,730	4,690
固定資産	11,795	10,994	固定負債	7,231	7,224
繰延資産	5	3	負債合計	11,961	11,914
			〈純資産の部〉		
			株主資本		
			資本金	1,600	1,600
			資本剰余金	1,257	1,257
			利益剰余金	795	1,610
			自己株式	△ 7	△ 7
			評価・換算差額等	336	559
			少数株主持分	76	76
			純資産合計	4,059	5,096
資産合計	16,020	17,010	負債・純資産合計	16,020	17,010

決算に関する資料等は当社ホームページでもご覧いただけます。 HP (<http://www.ana.co.jp>) → IR情報 → 決算情報 → 決算短信

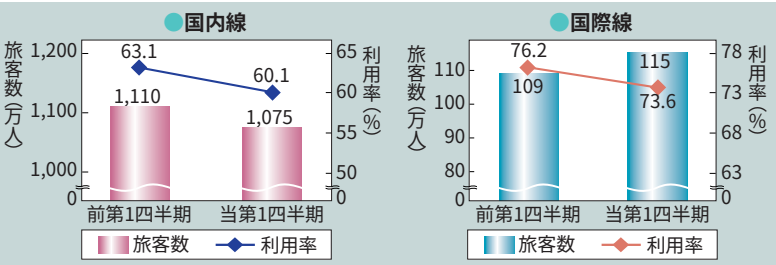
■キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前四半期純利益に減価償却費などを加減算した結果、310億円となっています。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは主としてホテル事業資産譲渡による収入により、2,030億円のフローインとなりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは借入金の調達、返済、社債の償還、配当金の支払いなどにより841億円の支出となり、当第1四半期末における現金及び現金同等物の期末残高は2007年3月期末に比べて1,500億円増加し3,223億円となりました。

航空運送事業

■国内線旅客事業

需要がやや弱含みで推移するなか、主要路線における競争環境が一層激化したこともあり旅客数は前年同期比96.9%となりましたが、4月の運賃改定と需要に応じた座席販売管理を更に推進した結果、旅客収入は23億円の増収となりました。



■国際線旅客事業

前期よりネットワークを拡充してきた北米路線及びアジア路線の旺盛なビジネス需要を中心に好調に推移し、旅客数及び旅客単価とも向上しました。また、中国路線においてもビジネス需要及び旅行需要が堅調であり、旅客数は前年同期を上回りました。その結果、旅客数は前年同期比105.6%となり、旅客収入は113億円の増収となりました。

■貨物事業

国内線においては新規参入による競争が激化した中でも輸送量は前年を上回りました。国際線においては、貨物専用機を増機し、また5月より米国航空会社「ABX Air社」への運航委託の開始により路線ネットワークを強化し、輸送量の取り込みに努めました。その結果、国内線貨物収入は微増、国際線貨物収入は28億円の増収となりました。

旅行事業

旅行ニーズを的確に捉えた商品を造成、販売した結果、売上高は前年同期比15億円の増収となり、営業利益は1億円（前年同期比1億円の減益）となりました。

その他の事業

その他の事業は、商社販売収入を中心に概ね好調に推移し、売上高は前年同期比18億円の増収となり、営業利益は9億円（前年同期比3億円の増益）となりました。

航空運送事業の売上高

		事業年度	前第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	当第1四半期 (2007年4月1日から 2007年6月30日まで)	増 減
航空運送事業	国内線	旅客収入	1,673	1,697	23
		貨物収入	73	73	0
		郵便収入	21	18	△ 2
		手荷物収入	0	0	0
	国際線	小 計	1,769	1,790	21
		旅客収入	650	763	113
		貨物収入	138	167	28
		郵便収入	7	9	1
		手荷物収入	1	1	0
		小 計	798	941	143
	航空事業収入合計		2,568	2,732	164
	その他の収入		310	327	16
合 計			2,878	3,059	181

(注) 各収入は事業区分（セグメント）間の売上高を含んでおります。

輸送実績

区 分	事業年度	前第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	当第1四半期 (2007年4月1日から 2007年6月30日まで)	前年同期比 (%)
国内線	旅客数 (万人)	1,110	1,075	96.9
	座席キロ (億席キロ)*1	152	154	101.3
	旅客キロ (億人キロ)*2	96	92	96.6
	利用率 (%) *3	63.1	60.1	△ 3.0
	貨物輸送重量 (千トン)	107	108	100.4
	貨物輸送量 (百万トンキロ)	104	104	100.3
	郵便輸送重量 (千トン)	20	19	97.0
国際線	郵便輸送量 (百万トンキロ)	22	20	93.3
	旅客数 (万人)	109	115	105.6
	座席キロ (億席キロ)*1	64	70	108.8
	旅客キロ (億人キロ)*2	49	51	104.9
	利用率 (%) *3	76.2	73.6	△ 2.6
	貨物輸送重量 (千トン)	61	77	126.3
	貨物輸送量 (百万トンキロ)	282	380	134.6
	郵便輸送重量 (千トン)	3	3	96.1
	郵便輸送量 (百万トンキロ)	16	16	103.9

- (注) *1. 座席キロ: (座席数) × (運航キロメートル)
*2. 旅客キロ: (旅客数) × (運航キロメートル)
*3. 利用率: (旅客キロ) ÷ (座席キロ)
4. 国内線にはBEXエアラインズ㈱、北海道国際航空㈱、スカイネットアジア航空㈱および当期より、㈱スターフライヤーとのコードシェア便実績を含みます。
5. 国際線にはユナイテッド航空 (関西～ホノルル線) およびエバー航空とのコードシェア便実績を含みます。
6. 国内線、国際線ともにチャーター便実績を除いております。
7. 国内線深夜貨物定期便実績を含みます。